

|          |   |       |    |
|----------|---|-------|----|
| 会議の名称    | 令和4年度第4回茅野市総合計画審議会  |       |    |
| 開催日時     | 令和4年12月21日(水) 18時30分～20時10分   |       |    |
| 開催場所     | 茅野市役所 8階大ホール  |       |    |
| 公開・非公開の別 | 公開・非公開  | 傍聴者の数 | 0人 |
| 議題及び会議結果 |   |       |    |
| 発言者      | 協議内容・発言内容(概要)   |       |    |
| 事務局      | <p>○議事</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 副市長挨拶</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1) 市民アンケート結果について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span></p> <p>5 協議事項</p> <p>(1) 第6次総合計画について～目指すまちの将来像、基本構想等～<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span></p> <p>6 閉会</p> <p>○議事録</p> <p>1 開会</p>   |       |    |
| 会長       | <p>2 会長挨拶</p> <p>年末のお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。政府は16日にデジタル田園都市国家構想総合戦略をまとめた。計画期間は2023年から2027年の5年間で、デジタルを地方の社会課題を解決する鍵としているもの。先日、茅野市でもDXを推進するための会議が開催され、私も出席している。DXの事業推進にあたっては市民目線を大切にしていくということで、外部評価委員会というものを設置することとなり、当総合計画審議会から萩尾委員が副委員長として指名された。当審議会でも本日、与件の整理の中で市民アンケートの結果が説明される。最近私が感じていることだが、与件の整理の中でも一番重要なのは茅野市の人口の推移ではないかと思う。茅野市はコロナ禍にあっても大変健闘していると思う。5年前は100区画も売れ残っていたグリーンヒルズビレッジがこの11月に完売となった。私なりに分析した結果、購入者の内訳は首都圏や県外の方が約55%、市内の方が約30%、諏訪圏域を含む県内の方が約15%。また、年齢別では、40歳代・50歳代の方が約50%、続いて60歳代以上が約25%、30歳代が約20%、その他が約5%となっている。茅野市は県内を見渡しても自然及び歴史的に大変優れており、コロナ禍にあっても見直されていることを強く実感した。これから第6次総合計画を策定していく際にも大きなヒントとなるのではないかと感じている。後ほど事務局から第6次総合計画の基本構想部分が説明されると思うが、ぜひとも慎重審議をいただきたい。</p> |       |    |
| 副市長      | <p>3 副市長挨拶</p> <p>年末のお忙しいところ、また足元の悪い中お集まりいただきありがとうございます。茅野市の総合計画審議会も4回を重ねてきたが、長野県でも次期総合5か年計画を策定している途上にある。先月、県の総合計画審議会が</p>  |       |    |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>ら答申が示され、位置づけとしては、おおむね 2035 年、これから 12 年後の長野県の将来像を展望し、それを実現するための今後 5 年間の行動計画として策定される。茅野市も同様だが、基本構想ではある程度中長期的なまちの将来像を描き、それを実現するために今後 5 年間で取り組む具体的な施策を総合計画に落とし込んでいくということになる。教育や環境、ゼロカーボンなどは長期的な視点で取り組むことであり、縄文の精神についてもまちづくりの哲学として取り入れていくことになると思う。中長期的な視点で定める基本構想と、今後 5 年間で取り組む具体的な施策、このあたりを今後ご議論いただくことになるので活発にご意見をいただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>4 報告事項</p> <p>(1) 市民アンケート結果について</p>   |
|     | <p>資料 2 = 企画係主査が説明 =</p>   |
| 会長  | <p>アンケート結果を見ると、コロナ禍も 3 年目になり、人と人とのつながりを求めはじめているところが特徴ではないかと感じている。</p>  |
| 委員  | <p>膨大な量のアンケートで目を通していない。説明も簡易であったため中身がわからない。結果をどう活かしていくのかわからない。</p>   |
| 委員  | <p>今回は恣意的に若い世代の対象者を多くしており、統計として取るときにはやり方は考えたほうが良い。市民の声はその時々で変わることもあり、選択肢も限られているのでアンケート結果の分析は難しいが、結果を掘り下げていくと見えてくるものがあると思う。市民に寄り添うということは一筋縄ではいかないが、今後の行政は、行政の決めたことに市民がついていく、施してもらおう、ということではなく、一緒に作っていくということが大事であると思う。</p>   |
| 委員  | <p>コロナによる収入面の不安ということも書かれていると思うが、業種によっては本当に厳しい状況で、廃業に至る事業者もある。国の交付金などもあるが、コロナによって厳しい状況にある事業者のケアや再就職、事業転換などを支援していくことが必要ではないか。</p>  |
| 委員  | <p>このアンケート結果をどのように計画に盛り込んでいくかが重要であり、悩ましい。幸せを実現するまちというキーワードに対して、このアンケートの中から市民が幸せを感じるものは何なのか読み取りたいと思うがなかなか難しい。逆に、アンケート結果を基に、この計画案を作っているとしたら、そのあたりを説明してもらえると検討しやすい。</p>   |
| 事務局 | <p>今回の市民アンケートはそれぞれの所管課が進める施策について意見をいただいた部分と、自由意見部分に分かれている。今後それぞれの所管課が中心となって策定していく基本計画の参考にするとともに、審議会の皆さんにもご意見をいただきながら、基本構想の検討にも役立てていきたい。</p>  |
| 事務局 | <p>5 協議事項</p> <p>(1) 第 6 次総合計画について～目指すまちの将来像、基本構想等～</p>  |

資料1 =企画係主査が説明=

会長

私は第3次総合計画から関わっているが、これまでの計画とは違って普遍のテーマ、目的といったことが初めて書かれている。幸せを実現するまちとあり、幸せとは何か、定義することは難しいが、一人ひとりが自己実現をすることによる幸せ感、というものは大事であると思う。たくましさ、やさしさという言葉について、産業の活力という意味でのたくましさ、福祉・医療分野におけるやさしさという概念はこれまでの計画にもあったが、ここで新しくしなやかという言葉と、交流拠点という言葉が使われている。交流拠点については第3次総合計画にも出てきた言葉だが、同じ言葉でも当時とは意味合いが異なるように思う。当時は別荘の住民と市民との間に隔たりがあり、都会から来た人が茅野市で交流していくということが主であったと思うが、今回の交流拠点という言葉には、多様な人が茅野市に集い、様々な交流が生まれる茅野市でありたいという思いが込められているように思う。委員の皆さんもいろいろな感想をお持ちかと思うので忌憚のない意見をお聞かせいただきたい。

気候変動によってこれまでは予測できなかったような災害があらゆる場所で起きており、市民が求めるものとして昔から安全・安心と言われてきたが、安全・安心が最優先事項になってきたと感じている。そのあたりについて、環境という切り口で委員がお考えになっていることはあるか。

委員

なかなか目配りができたいい案だと思う。この中で、SDGsという第5次総合計画にはなかった新しい言葉が登場するが、資料の8ページの社会背景にもこのSDGsという概念を盛り込んでどうか。気候変動については、人間の活動の結果による環境問題であるということが世界的な共通理解になっているので、SDGsの考え方も参考に検討してもらいたい。パートナーシップのまちづくりについては脈々と今回の計画にも引き継がれているが、国際的なSDGs策定の流れの中でパートナーシップが重視されるようになったのは2002年頃であったと思う。その翌年の2003年に茅野市はパートナーシップのまちづくり基本条例を施行しており、国際的に見てもいち早く取組を始めたのは茅野市であるということは明確に示しているのではないかと思う。

委員

縄文は自然に負荷をかけないだけでなく、その先を読んでいろいろなものを作り、残していた。三内丸山遺跡などでは、栗の木を植えて、栗を食事の中心に据えながら、というようなこともやっていた。ただ負荷をかけないだけでなく、積極的にSDGsを取り入れていたものと考えている。

委員

少しじっくりこないのは交流拠点という言葉。これまでの意見に出てきた、SDGsを実現するまち、とか、多様性を実現するまちといったものであれば市民も理解しやすいと思う。例えば、飯田市がリニアの開通を見据えて交流拠点を目指すということであればよいと思うが、茅野市の第6次総合計画においてはもっといい言葉があるのではないかと思う。

委員

私とすれば交流拠点という言葉は、たくましさ、やさしさ、しなやかさ

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>の3つの言葉に含まれている内容が交流する拠点をつくるという意味で捉えた。このうち、やさしさの中には地域の担い手育成・支え合いの仕組み、しなやかさの中には生涯に渡って活躍するための学びといった言葉があるが、社会教育や公民館活動をきっかけに人と人がつながり、地域に住む人の生き方を豊かにしたり、茅野市を元気にすることができると思う。アンケート結果にもあったが、本当はみんな人との関わりを持ちたいのに、コロナによって希薄化してしまっている。人と人がつながることで茅野市が元気になることが目指すべき姿であると思う。それによって住みやすく幸せを実現するまちになると思う。</p>  |
| 副市長     | <p>第3次総合計画の時に将来像として掲げた交流拠点都市は、当時まだ途上にあった都市基盤整備や、リニアの新駅も想定したハードメインの打ち出し方であった。今回の交流拠点のイメージは、超少子高齢化が進んでいく中で、人と人のつながりやコミュニティを改めて強化していこうという打ち出し方を考えている。交流という言葉は例えば地域循環共生社会というような言葉に置き換えることもできるかもしれない。地域の中で様々なものがつながり、循環していくことをイメージして交流という言葉を使っている。委員の皆さんから様々なご意見をいただきながら、交流という言葉にどのような考え方を込めていくかが大事であると考えている。</p>   |
| 会長      | <p>市民アンケートを見ると、市民は人と人とのつながりを求めていると実感している。交流という言葉には、人と人がつながるということが含まれていると思うので、その点は大事であると思う。</p>   |
| 委員      | <p>今回の交流拠点という言葉には、様々な形で茅野市と関係を持つ人、関係人口との交流拠点という意味があると思う。そういった交流人口が将来茅野市に移り住んでくれば人口問題の解決にもつながっていく。交流拠点は交流人口をどのように増やして、茅野市にとってプラスに変えていくかということを目指した言葉ではないかと思う。</p>  |
| 地域創生政策監 | <p>昔から続く地縁・血縁を前提とした結という助け合いの精神から、パートナーシップのまちづくりという市民主導・行政支援へと変遷してきたが、これば人口増加社会において成り立っていたもの。これからの人口減少下においてどうしていくかという前提は丁寧に書いていく必要があると考えている。デジタルという視点で見ると、人口増加時代のデジタル化は例えば、金融市場においては勝者と敗者を生み出し、格差を拡大する手段でもあった。一方で、人口減少下においては、例えば、寝たきりの障がい者のアイデアや、体が動きにくくなってきた高齢者の知恵などもデジタルによって繋ぐことで、総力戦で新たな価値を創造していくことが必要。委員からご意見をいただいた別荘市民との交流や、観光・ビジネス等による交流に加えて、インターネットを介して全世界とつながることで、茅野市は「競争」ではなく、「共創」によって新たな価値を生み出す地域になることを目指すべきであると考えている。特に、たくましい産業を生み出すといったことを考えると、デジタル田園健康特区の指定によって若者のベンチャーが集まってきている現状もあることから、人や知識、知恵、投資などが集まる魅力的な拠点になりたいと考えている。デジタルなどを活用した未来型の結いといったことも、ほかの地域に負けない特色として書き</p> |

|     |  |
|-----|--|
| 委員  | <p>込んでいきたいと考えている。</p> <p>デジタル化は企業の規模や管理体制のレベルによって様々であるが、インボイス制度など、電子的な管理が求められている時代になってきている。企業誘致においても、時代の流れに即した半導体関連企業などに来てもらい、地元の中企業等とも連携が生まれるとよい。個人的な思いとしては、少子高齢化の時代においては出生率を上昇させるということが大切ではないかと思う。子育て支援ということは書かれているが、子どもを産みやすい、育てやすい環境を整備することで出生率を上げることが将来の生産年齢人口の増加にもつながり、茅野市の行財政にも好影響を与える。他地域から人を呼び込むことも大事だが、茅野市が増えても相手は減ることになる。人の取り合いよりもまずは10年後、20年後を見据えて地元の子どもの増やすということが大事ではないか。</p>                           |
| 委員  | <p>茅野市は昔から子育てに力を入れていて、子ども居場所づくりなどは他の地域と比べても先行していたと思う。その後、国が政策化したり、他地域が追いついてくる中で、独自にやってきた茅野市のやり方が合わなくなってきている部分もあるので、その点は今後どんぐりプランの見直し中で議論になると思う。総合計画全体を見れば、どこの自治体にも当てはまるようなことではなく、パートナーシップのまちづくりや公民館活動など、茅野市ならではの要素が時代に合った形で盛り込まれることが大切。DXについても、DXできない部分はアナログで残すということではなく、DXによって効率化することで生まれた時間や労力をさらにアナログの方に投下するといった相乗効果を生み出すことが必要。資料9ページには交流拠点のことが書いてあるが、新たな価値や生きがい生まれるというところが大事で、そこが計画案にある幸せを実現するまちにつながっていくと思う。</p> |
| 委員  | <p>幸せを実現するまち、という言葉はいいと思う。幸せというのは人それぞれであるが、それを作り出していくまちというのはとても住みやすいまちであると思う。交流拠点という将来像については、先ほど再検討した方がよいという意見もあったが、昨今は人と人とのつながりが希薄になっていることから、交流ということはとても大切なことだと思う。</p>   |
| 委員  | <p>農業分野においては、作物に自分で値段をつけられないところが課題だが、これは市の施策でどうにかしてもらうことは難しいかもしれない。先ほど子育て支援という話があったが、農業をやる場合、どうしても市街地から離れて農地の近くに住むことになるが、そうすると今度は子どもが学校に通うための送迎に多くの時間を取られてしまうことになる。通学通勤バスを充実させることで負担が軽くなれば、若い世代でも安心して農業に就いてくれる人が増えるのではないかと思う。</p>  |
| 委員  | <p>自分の意見の前に、資料の3ページなどに下から上に向かって矢印がいくつもあるが、これの意味するところは何か。</p>   |
| 事務局 | <p>それぞれのレベルで定められた目標を達成していくことが、その上のレベルの目標を達成するための手段でもある、ということを表している。</p>  |

|     |  |
|-----|--|
| 委員  | <p>矢印の向きが逆ではないか。三角形の頂点にある将来像が決まらないのに基本構想や基本計画は決められないと思うがどうか。</p>   |
| 副市長 | <p>ご指摘の通り。上の目標を達成するための手段が下の階層での目標となる。</p>  |
| 委員  | <p>普遍的なテーマについて、幸せは人それぞれであるが、自己実現ができるということはいろいろな環境が整わないとできないことなので、それが整うということは幸せなまちではないかと思う。将来像について、たくましくやさしいしなやかな、という形容詞については、先ほど別の委員からも指摘があったが、どこのまちでも使えそうな言葉であり、どのような意味が込められているのか想起できない。この形容詞は再検討してほしい。交流拠点については、物理的にも、人的にも、老若男女が交流する拠点、ベース、プラットフォームといった意味合いで拠点という言葉であると思うが、かつての第3次総合計画の時とは変わってきているということではないと思う。Well-beingという言葉については、どこから出てきた言葉なのかわからないが、急に出てきた言葉が普遍的なテーマに関わることはあってはならない。日本語でも、よく聞く英語でもなく、概念もわからない言葉が大事なところに使われるということは市民にとってもモヤモヤ感を与えるのではないかと思うので外してほしい。SDGsが縄文と関係しているというのは、多様性、許容性、容認性といった価値観を縄文人が持っていたということであると思う。栗の木を植え、育てて、サステナブルな状態を1万年に渡って維持したのが縄文時代。ぜひそういった縄文人の精神性なども勉強会や公民館活動の中で学ぶことで、縄文を活用した交流拠点になっていくと思う。いい言葉は散りばめられていると思うので、次回、どのように計画案が変わっているか楽しみにしている。</p> |
| 委員  | <p>今回普遍的なテーマが設定されたことはよいと思う。Well-beingという言葉を使うかどうかについては改めて検討すべき。矢印の向きについては忘れたらいつもここに戻るべきだということを表す矢印だと解釈していた。アンケート結果との関係で計画案が分かりにくいと感じていたが、視点の違いによるものではないか。行政側からの視点で見れば、本当にたくさんの課題があって、それをうまくまとめて計画に盛り込んでいくという大変な作業だと思う。一方で、アンケートは多様な主体がそれぞれの立場で、市民という人がいるわけではなく、個人一人ひとりが考えて、回答したもの。今回第5次総合計画を第6次総合計画に切り替えることはよいと思うが、ポイントはここにある。考え方そのものが大きく変わったということであり、全体に対して政策を展開するのではなく、主体である市民側から見返すように政策を考えていく必要があるのではないか。その点において、資料4ページの図は主体である市民が幸せになる、という視点で描かれると、茅野市らしさを表すことにもつながるのではないか。資料の10ページも、市民側から見たときに、安心して快適に暮らせるまちとは何か、といったことが具体的に示されると市民にとってもわかりやすい。多様な主体というのは、関わる人、訪れる人、住む人だけではなく、年齢、仕事、LGBTQといった多様な性別、子どもを持たなかった人、親に恵まれなかった子どもなど様々であり、こういったあらゆる人が幸せに暮らせる</p>                          |

|            |  |
|------------|--|
| <p>委員</p>  | <p>まちというのはとても良いキーワード。茅野市がロールモデルとなること<br/>     ができれば、他地域から人を奪ってきて茅野市だけが幸せになるというこ<br/>     とではなく、茅野市がほかの地域の手本のようにもなれると思う。視点を<br/>     反対にして、計画を作るということを考えてもらいたいと思う。</p> <p>キーワードについてはどれも外せないものだと思うが、これだけあると<br/>     どこに焦点を当てるかというのは今後の検討課題。私とすれば、たくまし<br/>     きの部分にあるヒト・モノ・カネ・情報が集まるということが非常に重<br/>     要だと感じている。そのためにはやはり産業振興、茅野市においては特に<br/>     工業や観光、農業といった分野が活性化すると商業の方にもお金が回ると<br/>     いう流れができるのではないか。また、それによって茅野市の財政面にも<br/>     いい影響を与えらると思う。茅野市の財政に余裕がないと色々な施策に厚み<br/>     を持たせることが難しい。そういう意味で、お金を集める施策、集まる施<br/>     策が中核にあった方がよいと思う。</p> |
| <p>会長</p>  | <p>今日はいろいろな意見を聞いて、茅野市らしさを出すというのは大切で<br/>     あると感じた。私もかつて公民館の主事などを務めたが、楽しかったし、<br/>     茅野市民でよかったと思った記憶がある。そのあたりも今後基本計画等<br/>     の中に落とし込んでいってもらいたいと思っている。</p>   |
| <p>副会長</p> | <p>6 閉会</p> <p>今日は貴重なご意見をたくさん出していただきありがとうございました<br/>     た。いただいたご意見を咀嚼し、できた案に対してまたご意見をいただ<br/>     き、さらにそれを咀嚼して総合計画に反映していくのだと思っている。言<br/>     葉は様々な形となって広がっていくのだと思う。交流拠点についても、ど<br/>     うとらえていくか、固定観念に縛られず考えていければよいと思う。今年<br/>     最後の審議会となる。皆様ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>  |